



この本は、
実の多面性、接
続詞の使い方、
文章の幹と枝葉
の見分け、強い
根拠と弱い根拠
質問の力、反論
し議論を育てて
いく力などについて、問題形式
で構成されている。野矢氏は
「大人のため」
の意味を次のよ
うに説明する。
きちんと伝えら
れる文章を書き、
話す力、それを
的確に理解する
力、そんな国語
力を鍛えなけれ
ばならない。問
題を考えながら
進めることを楽
しんでもらいた
い。役に立つこ
とをめざした本ではあるが、大
人にとっては楽しくなければ続
かないし、力にはならない。
氏は通常の問題文について、
「あまりよい文章とは言えな
かったり、エッセイ的で要領を得
ていたりする。いきなりこうし
た文章に立ち向かうのは、泳ぎ
が苦手な人が海に放り込まれる



大人のための国語ゼミ

野矢茂樹 著
1944円・山川出版社
☎03-3293-8131

ようなもの」と指摘する。
氏の主張する「普段着の文章
志向」は、大人だけでなく、現
代文の授業になじめない多くの
若者にとってもなじみやすいの
ではないかと評者は思う。「い
きなり海に放り込まれる」現
状を是正し、氏の言うように「ま
ずはプールで、つまり学ぶべき
ことのポイントが明確で、よけ
いな要素があま
り入っていない
文章、実用性の
高い文章で練習
することが国語
を学ぶ楽しさに
つながるのだと
感じる。
また、氏は、
分かりあうこと
などできないと
か、考えは人そ
れぞれとかいう
ことを認めた上
で、言葉の力の
支えによって分
かりあおうとす
るよう提唱する。
つながり志向を
持つつつ、個人
化社会を生きな
ければならない
今の若者の心は、
その言葉はす
んなり入ってい
くのだと思う。
学校教育の国語
も、成人教育と
同様、有用かつ
楽しいものであ
りたい。

(聖徳大学教授・西村実東士)